



第 21 回 ロータリー月例報告書

2022 年 5 月

東海岸コネチカット州でも桜が満開の季節になり、最近心地よい気温の中しとしと雨が降ることが多くなりました。第 21 回目の月例報告書では 2022 年 4 月から 5 月までの生活状況をご紹介します。

今月は共同研究チームとミーティングを重ね、現在のプロジェクトをなんとか形にまとめようと舵を切ったひと月になりました。時間外の交流会では学科の枠を超えて企画されることが多く、様々な学生やポスドクの人と知り合えることができました。所属している研究室では、一人の教授が唯一のボスとして 20 人を超える博士課程学生とポスドクを率いています。全ての研究テーマは水処理技術を中心としているものの、各々とても異なっており一言ではまとめることが出来ないくらい広範囲にわたっています。そのため以前から、教授はどのように一つひとつのテーマを把握し管理しているのか疑問に思っていました。定期的な学会やセミナーではもうほとんど発表することはありませんが、特に研究資金獲得のための応募書類や報告会では最高責任者として教授が自ら執筆と発表を行います。この時に内容を完全に把握していないと質疑応答や議論の際に困ることになります。先月末にエネルギー省から資金を得ているプロジェクトの研究報告会がありました。発表会の 2 日前に教授から絵文字とともに、明後日に発表することになったから今までの結果のスライドを用意してくれないか、というメールが届き、急遽ミーティングをすることが決まりました。スライドを自分なりに用意し、それに先生が適宜修正とコメントを加えていくという流れで作業が進んでいきました。スライドの作成から実際のプレゼンテーションまで直に関わることができ、勉強になりました…というより珍しい経験ができたと思います。このように報告会の機会を利用して教授は随時いろいろな研究状況を把握しているのだと知りました。当日は各方面から質問があり、それらを元に新たな方向性が生まれることを期待しています。結果をまとめている最中に気がつくことも多くあり、論文構成の草稿によく活着していると感じます。現在はまた新たな問題に直面していますが、少しずつ進めていきたいと思っています。

夏休み中に 3 度目の引っ越しをしようと計画しています。大学の管轄下にある今のアパートはキャンパスと街の中心から少し離れたところにあるので、今度はダウンタウンに住んでみようと思っています。偶然にも今年の夏に博士号を修得し日本へ就職する予定の先輩がいましたので、引き継ぎという形で無事にアパートを見つけることが出来ました。これまでと周辺の雰囲気が大きく変わりそうで楽しみです。

写真は工学部サッカーチームです。今学期は 4 勝し準決勝まで進みましたが、医学系チームに惨敗しました…来学期はリベンジしたいです。今月もすでに半分があっという間に過ぎてしまいましたが、研究やプログラム課程を堅実に進めていきたいと思っています。いつも国際ロータリー財団様の多大なご支援を有難うございます。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

